13⑦ 危険等発生時の注意点

ア　頭頸部外傷への対応

・すぐには立たせない。（動かさない）

・意識障害がある場合はすぐ救急車を要請する。

・意識消失（気を失う）から回復しても速やかに受診し、医師の判断を仰ぐ。

イ　熱中症への対応

・意識を失っている場合はすぐに救急車を要請する。

・意識がある場合は、涼しい場所に避難させ、水分補給と衣服を緩めて全身を冷却する。症状が改善しない

場合は病院へ搬送する。（状況に応じて救急搬送することも検討）

ウ　食物アレルギーの対応

・全身、呼吸器、消化器のそれぞれに異常があれば速やかに救急車を要請する。

・緊急性が高いアレルギー症状があるか５分以内に判断する。

・ただちにエピペンを使用する。

・反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生法を行う。

エ　各気象災害

(ア)　大雨（洪水土砂災害）

・気象情報、防災気象情報、避難情報及びハザードマップ等を確認しておく。

・防災気象情報及びハザードマップの想定を上回る洪水や土砂災害が生じる可能性もあることを踏まえて

おく。

・教職員で情報共有と連絡体制を確認しておく。

・学校は避難所指定になっている事から、その対応について教職員の体制整備や自治体の防災部局と連携

して準備しておく。

(イ)　雷

・屋外活動を中断し、速やかに屋内に避難する。

・下校前の場合は、素速く情報を収集し、必要に応じて児童生徒等を待機させる。その際は、学校の対応

を保護者に連絡する。

(ウ)　竜巻

【教室にいる場合】

・飛来物を避けるため、窓を閉め、カーテンを引く。.

・窓ガラスからできるだけ離れる。

・丈夫な机の下に入るなど、身の回りにある物で頭を守る。

【教室以外にいる場合】

・壁に近い場所で避難姿勢をとる。

・建物の最下階に移動する。

・登下校時などは近くの頑丈な建物や地下に避難し、建物に避難できない場合は、くぼみ等に身を伏せ、

横風を受けないようにする。

(エ)地震・津波

【初期対応】

・落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に避難する。

【二次対応】

・素早い情報収集と臨機応変な判断と避難

・想定すべき二次災害

・津波（海からの津波　河川を遡上して堤防を越えてくる津波）

・火災（学校からの出火　周辺の地域からの延焼・類焼）

・余震（建物の倒壊　非構造部材の落下・転倒・移動）

・その他（土砂災害　液状化　地盤（沈下、すべり、擁壁の崩壊等）　水害　原子力災害　雪害）

オ　Ｊアラート・弾道ミサイルへの対応

行動の基本「姿勢を低くし、頭部を守る」

弾道ミサイル発射情報・避難の呼びかけ

○避難行動について

【屋外にいる場合】

・近くの建物の中や地下に避難し、床に伏せて頭部を守る。

・近くに避難できる建物がない場合は物陰に身を隠すか地面に伏せて頭部を守る。

【屋内にいる場合】

・できるだけ窓から離れ、できれば窓のない部屋に移動する。

・床に伏せて頭部を守る。

※追加情報があるまでは、引き続き屋内避難を継続する。

カ　犯罪予告・テロ等への対応

【発生時の対応】

・学校独自の判断は避ける。

・警察（消防）に通報し指示を仰ぐ。

・教育委員会へ報告し連携しながら対応する。

・教職員に状況を説明し、最悪の状況を想定しつつ、児童の安全を第一に対応する。

・児童が不安にならないよう配慮しつつ、安全な場所に速やかに避難する。

・不審物を発見した際は、近寄らず、警察へ通報する。